

広島都市圏



広島市北西部の山麓五日市イ
ンターチェンジ近く、五月が丘団
地(佐伯区)に隣り立つ、パン
フレットを片手に各住宅のまき
込む人たちが目についた。
モザルハウス見学。
いや、でも生活感がある家だ、
白毛を開放してキャットリ化する
「Maison(展示会)」(二十四日)
が、昨年に騒が聞かれていたとい
う。団地内を巡って見た。

■ ■ ■
三日の坂道を上っている、
カフナルなバッグを袖干しを
行ける下げた住宅を見つけた。
紙、黄、赤、黄色。かこは、研
習用のひもで纏まれている。こ
の家で工芸を教える松浦純子さん
(58)の作品だ。
彩り豊かなに纏われて、近
くの主婦広木恵美さん(56)がペラ
ンタへ上がってきた。「屋上への
ビニールシートと黒と白のツ
ェンカラーのかわを買い求めた。
二人はそのままペラントでディ

軒先にかこバッグ、応接間でニット／庭先のギターに合わせ聴衆も合唱

行きつ戻りつ 歩くのだ

藤村 潤平、田沼 規充、永里 真弓

近所新発見交流生む

「五月が丘まるごと展示会」
(広島市佐伯区)

「タイム、松浦さんが「もしかし
なすいた」とも「団地に三十年近
ゆつくり顔ができて楽しい」とほ
て、あの角に住んでいらっしやる
く住むが、言葉を交わすのは初め
の」と指さすと、広木さんがう
てという。「気軽に家を訪問られ

「近所付き合いの輪は、二丁目
の中島豊子さん(67)家でも広が
っていた。朝の物交際を目標で開く



中島さんは、三年ほどで玄関横の
応接間で手織ニットを展示し
た。昨年の展示をききながら教室
へ通い始めた三日の主婦石川生
子さんと製作したのは、ビエ
のほなせだろ。参加者の一
人、坂田由子さん(67)が「三
丁目の船組工の
アトリエを助
か、展示だけ
が目的じゃない
の。」「近所の
の交流、団地
のきずなを保た
かったと教え
てくれた。

■ ■ ■
五月が丘団地
は、一九七二年
に造成開始。多
くの世帯で千奇
くが終わり、夫
婦二人や高齢者
の一人暮らしが
目立つ。人口は
七千三百人、一
年前から千三百
人減った。「団
地」の気を取り



来場者との会話を楽しむ坂田さん(右端)。テーブルのいちすの一角は、夫木さんの手作り



「展示したい」との思いが、展示会の
にこんな先住がいるなんて、移り
実感を体感したとまでだ。
「静謐な住民四十の会話が聞え
た。」「スパー
である、自
然の音、い
「Fouad」
なる十五曲、ペラントに、織機に
座った人たちが歌謡をうたわ
高ぶる歌謡です。」「野やれは
していた。

■ ■ ■
その座り、アコースティック
ギターの前は、松浦さんのパ
ンフレットの展示台。メロデー
に引き寄せられ、聴衆が集まった。
「八十八年開成した、織機に
なる十五曲、ペラントに、織機に
座った人たちが歌謡をうたわ
高ぶる歌謡です。」「野やれは
していた。

和歌山県 森田会
www.wakayama-district.com
平和通り歯科
口腔外科
249-2002

「団地」は「お天」、松浦さんの家の
スリッパに足元をバッグを
提げ、歩行人が来たと入って来
た。(藤村・田沼撮影)

中島さんの手織ニットは、教習士も人も好
む。の気持ちは、足元をバッグに入れた。

「展示したい」との思いが、展示会の
にこんな先住がいるなんて、移り
実感を体感したとまでだ。
「静謐な住民四十の会話が聞え
た。」「スパー
である、自
然の音、い
「Fouad」
なる十五曲、ペラントに、織機に
座った人たちが歌謡をうたわ
高ぶる歌謡です。」「野やれは
していた。